



歯科医院は、みんなの「安心ステーション」

にしもと小児歯科医院（福岡市） 西本美恵子

略 歴

西本美恵子

略歴

1977年 九州歯科大学卒業

1977年-1981年 九州歯科大学第2保存学教室入室

1984年 にしもと小児歯科医院開業

NPO法人ウェルビーイング理事、ネパール歯科医療協力会理事、福岡歯科衛生専門学校教務副部長

「健やかに、自分らしい、幸せな人生を過ごしたい」と願う人々に、小児歯科医療者は何を応えられるのでしょうか。信頼され安心できる歯科医院として、妊娠期や子どもの時から関わっていきたい、と願う私たち医院の考えや対応についてお話しします。

親と子の笑顔を支える小児歯科

子どもの健康と幸福を促進する為には、子どもだけでなく家族への関わりも大切です。子どもと家族が安心して主体的に保健医療に関わり、持っている力を発揮できるように、「子ども・家族中心医療」を行っています。

(1) 基本姿勢は、尊重、情報の共有、支援、協働、継続的関わり

(2) 育児支援としてのグループプログラム「マザーズクール」

2、継続的に関わる定期健診

定期健診継続率が高い歯科医院に共通するのは、来院者の自律性を尊重して支援する姿勢がある、という報告があります。WHO（2001年）は「健康行動改善の為には、従来のコンプライアンスから、アドヒアランス（積極的順守）への転換が必要である」と述べています。

来院者と関わる時には思いや物語を注意深く聞き、来院者が自己決定し、自己効力感や安心感をもてるように心がけています。

3、みんなでつくる「安心ステーション」

歯科医院はチームとして、同じ目的や目標を共有して進むことが大切です。私たちの医院では、OPPAモデル（NPO法人ウェルビーイング開発）を使いスタッフ全員で、みんなの思いを反映した計画づくり、プロジェクトの推進、アクションの遂行を行っています。

地域の資源である「歯科医院」が、地域社会、住民、来院者、スタッフ、みんなにとってかけがえのない「安心ステーション」であり、希望を与える「幸せな居場所」の一つになり、みんなの笑顔が増えることを願っています。